

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

【結果】

		国語	算数	理科
正答率	全国平均 (%)	65.6	63.2	63.3
	本校 (%)	66.0	64.0	63.0

全体を通して、全国平均とほぼ同じという結果になりました。

各教科で特徴の見られた部分についてご報告させていただきます。

【国語】

「物語の全体像と関わらせながら表現の効果を考える」設問では、全国平均 59.2%という正答率を大きく上回る 69.4%という正答率となりました。物語に登場する人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分で考える力が高まっていることが分かりました。

ただ、「自分や友達の書いた文章について、感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けることができるかどうか」を見た設問では、全国平均 37.7%という正答率の低さと同様に、本校も 35.5%となりました。自分の文章を考えに表す経験や書いた文章を推敲し、自分の伝えたいことがより伝わりやすくなるように書き表すという学習経験をより多くできるようにしたいと考えています。

【算数】

「目的に合った数の処理の仕方を考察する」という設問では、全国平均 34.8%という正答率を大きく上回る 45.5%という正答率になりました。場面に合わせて結果を予想したり、能率的に計算したりしようとする力が高まっていることが分かりました。

ただ、「示された場面を解釈し、演算方法の理由を記述する」という設問では、全国平均の 76.0%という正答率に対して、68.6%と課題の残る結果となりました。その誤答の中には、2つの正答条件のうち、どちらか一方しか記述せずに誤答と判断されているものが多くありました。条件に沿って、自分の考えを述べる力に課題があると分かりました。日頃より、文字数や正答条件などを明確に意識して記述する経験をより多くしていきたいと考えています。

【理科】

「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるか」という設問では、全国平均の 57.6%という正答率を上回る 62.0%という結果になりました。日頃より多く取り組んでいる、自分の予想を確かめる実験方法を自分たちで考えるという力が高まっていると分かりました。

ただ、「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」という設問では、全国平均 67.5%という正答率に対して、59.8%という課題のある結果になりました。2つの正答条件のうち、どちらか一方のみを記述したり、資料の一部分のみを抜粋して回答したりしている誤答が多く見られました。資料の情報をよく読み、事実を基に、自分の考えを述べるという学習経験をより多くしていきたいと考えています。

【全体を通して】

どの教科でも、自分の考えを述べるということに課題が見られました。日頃より、決まった答えのない話題について話し合ったり、自分の考えを述べたりするという学習経験を積み重ねていきましたが、この結果を受けて、より自分の考えを「記述する」という学習経験を増やしていきたいと考えています。また、その際には、文字数や必ず記述する内容を条件として示し、取り組めるようにしていきます。

また、正答率が低い問題では、全国平均に比べて無回答率が高いことも分かりました。日頃より、難しさを感じても「どこまでわかって、何が分からないのか」を記述できるように支援していきたいと考えています。